

CLAIR トピックス

——最近のクリアの動きや所管国の状況などを短くまとめて紹介します



パリ事務所

サロン・デ・メールに出展しました

2024年11月19日から23日まで、パリの国際展示場で開催された「サロン・デ・メール (Le Salon des Maires)」にクリアパリ事務所のブースを出展しました。

サロン・デ・メールはフランスの全国市長会 (AMF) の総会に合わせて開催される見本市です。自治体を顧客に持つ民間企業が自社の製品やサービスをPRするだけでなく、国や自治体関係の機関なども多数出展します。期間中は、フランス各地の自治体の首長や事務総長などが訪れるほか、時には閣僚や首相も来場する一大イベントです。

海外の行政機関による出展は珍しいことから、クリアパリ事務所のブースに足を止めて立ち寄る人は多く、現地調査や研修の受け入れ先がこのイベントでの関係を通じて見つかることもあります。今回の出展でも、これから日本の自治体と交流を行いたいフランスの自治体関係者や、日本の自治体での取り組みに関心のある国際機関の関係者などがブースを訪れ、情報交換を行いました。

クリアパリ事務所では日仏の姉妹都市交流の支援も行ってまいりますので、フランスの自治体との交流を考えている場合は、是非ご相談ください。



ブースでのPRの様子



茶席での情報交換



北京事務所

「中国国際旅游交易会 2024」で日本の自治体をPRしました！

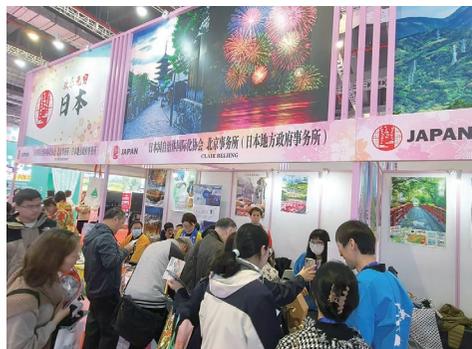
クリア北京事務所は、2024年11月22日から24日の3日間にわたり上海市の国家会展センターで開催された「中国国際旅游交易会 (CITM) 2024」に出展しました。同旅行博はアジアで最大の観光専門展示会であり、主催者の発表によると、期間中は80以上の国と地域が参加し、のべ約15.3万人の来場者でにぎわいました。

今回、2025年4月から始まる大阪・関西万博のPRのため、公式キャラクターである「ミャクミャク」も登場しました。来場者から熱心に写真撮影を求められるなど人気を博しており、大阪・関西万博への強い関心がうかがえました。

クリア北京事務所は、確保したブースにおいて、出展応募があった宮城県、山形県、新潟県、愛知県、島根県、徳島県、新潟市、大阪市、チーム九州 (福岡県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、北九州市) の9団体15自治体とともに観光PRを行いました。全国の自治体パンフレットの配布や観光動画の放映、抽選会などに加え、日本政府観光局 (JNTO) と連携したスタンプラリーを実施したほか、JNTOブースでは、クリア職員が派遣元自治体を中国語で紹介し、注目を集めました。

クリアブースを訪れた来場者からは、「春節 (中国の旧正月) 時期のおすすめの旅行先はどこか」「日本の温泉に興味がある。東京、大阪周辺の温泉地を教えてください」などの声が寄せられ、訪日旅行に対する関心の高さがうかがわれました。

クリア北京事務所では、今後も各地方自治体と連携して積極的に観光PRを行ってまいります。



クリアブースを訪れる来場者の様子



大阪・関西万博PRブースの様子



ニューヨーク事務所

全米州政府協議会年次総会に出席しました

2024年12月4日から7日にかけて、全米州政府協議会（Council of State Governments (CSG)）年次総会がルイジアナ州ニューオーリンズにて開催されました。CSGは、米国の州や属領などにおける立法・司法・行政の三権に関わる公選職や任命職（知事、州議会議員、各種行政官など）を支援するための団体であり、州政府に対して、調査や情報提供、リーダーシップのための研修などを行っています。年次総会には各州議会議員や立法に携わる弁護士など600人を超える参加がありました。

今年度の総会においては、教育、環境、福祉、経済などさまざまなトピックに関するセッションが開催され、特に人工知能（AI）の分野において、ディープフェイクを規制する法整備について活発な議論がなされていました。

クレアニューヨーク事務所としては、日本政府観光局（JNTO）ニューヨーク事務所と共同で会場内にブースを出展し、両国が2024年の相互交流を進める「日米観光交流年」のPRを行いました。ブースを訪れた人から日本滞在時の思い出が飛び出すなど、日本への関心も高く、日米観光交流年の認知度拡大に寄与しました。



セッションの様子



ブースの様子



ロンドン事務所

LGAの年次総会に参加しました！

英国の行政課題や施策に係る知識を深めるため、LGA（英国自治体協議会 / Local Government Association）が主催する年次総会に参加しました。

LGAは、国や地域が抱える課題に対して、英国内の地方自治体がローカルな視点からの解決策を共有することを目的に設立された団体で、現在では、イングランド317の自治体のうち315の自治体が、ウェールズでは22全ての自治体が加盟しています。年次総会では、そのネットワークの広さを生かし、各地方自治体の取り組み事例の紹介や意見交換などを行っています。

2024年の年次総会は、10月22日から24日にかけてハロゲートで開催され、「地域における包括的な経済成長」「複雑な事情を抱えた子どもへの支援」「財政不確実性への対処」「高齢化社会への準備」「地方自治体における優秀な職員の採用」など、多岐にわたるテーマが取り上げられました。中央政府や地方自治体関係者に加え、地域コミュニティ団体からも参加があり、さまざまな立場から地域の課題や解決策について意見が交わされました。

同総会は、来年度はリバプールで開催される予定です。クレアロンドン事務所では、こうした場を活用しながら、英国における行政課題や施策に係る知識の深化、先進事例の掘り起こしなどに取り組みます。



パネルディスカッションの様子



英国地方自治体関係者による施策説明



シンガポール事務所

インドネシアで開催された EROPA2024 会議に出席しました

2024年11月4日から7日にかけて、インドネシアのジョグジャカルタで開催された「行政に関するアジア・太平洋地域機関（EROPA）」の執行理事会と会議に出席しました。

同機関は、アジア・太平洋地域の経済と社会の発展に資するために、各国の行政の質の向上を図ることを目的として設立された国際組織です。国家会員、団体会員、個人会員の3つが設けられており、クレアは団体会員として参加しました。日本の国家会員は、自治大学校が務めています。

今年度の会議は、インドネシア行政学会やアジア行政学会などといったアジア・太平洋地域の学会との共同開催であったことから、分科会では多くの研究者がパネリストとして日頃の研究成果を発表したほか、日本からも多くの研究者が登壇しました。

執行理事会やその後の懇親会を通じて、さまざまな組織とご縁をいただき、今後の連携に向けた足掛かりを築くことができました。今後は、各国の自治体の先進的な取り組みや研究成果の発表により得た知見を、日本の地方自治に還元できるよう取り組んでまいります。



執行理事会の様子



閉会式で総括する日本からの登壇者



ソウル事務所

韓国人向け地域 PR のための YouTube 動画を製作しました！

クレアソウル事務所では、地域の認知度向上およびインバウンド促進につなげるため、韓国人インフルエンサーによる日本の地域の魅力発信事業を実施しています。2024年度は、栃木県、福井県、岡山県の3県を訪問取材しました。

第1弾となる栃木県では、韓国人 YouTuber の「セヨンちゃん Sennim」さんが宇都宮市、足利市、栃木市、佐野市、日光市を訪問し、日光東照宮やあしかがフラワーパーク、若山農場など、栃木県有数の観光スポットを巡りました。そのほかにも、宇都宮餃子®、佐野らーめん、とちぎ和牛などのグルメや日光彫といった伝統工芸品などを取材し、動画内で紹介しています。

YouTube 動画は、第1弾を現在公開中で、動画や取材先の詳細は、以下の URL または二次元コードからご覧いただけます。第2弾と第3弾の動画は2024年度内に公開予定です。

今後も当事務所では、地域の認知度向上およびインバウンド促進のため、各自治体の魅力ある情報を積極的に発信してまいります。

URL : https://www.clair.or.kr/appeal/youtuber/youtuber_view.asp



日光彫体験



若山農場



シドニー事務所

全豪日本語教育シンポジウムに参加

2024年11月15日から16日にかけて、全豪日本語教育シンポジウムがシドニーで開催されました。初等教育から高等教育まで、すべての段階における日本語教育の研究および実践の発表や、州や教育段階を超えた情報交換やネットワークの構築および強化を目的とした全国規模のシンポジウムで、国際交流基金とモナシュ日本語教育センターの共催で2年に1度開催されています。

オーストラリア各地から日本語教育関係者約200人が参加し、2日にわたり、30本以上の発表や講演が行われました。英国の語学学習コンサルタントであるジョー・デル氏による基調講演「AIによる日本語学習の向上：学習過程の個別化」では、日本語教育に活用できるAI機能が紹介され、質疑応答では、将来の日本語教育の姿についてさまざまな意見が挙がりました。

クレアシドニー事務所は、本シンポジウムに出展し、日豪間の学校交流や姉妹都市自治体、JETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）のPRのほか、訪日教育旅行に関するアンケートなどを行いました。ブースを訪れた人からは「数年前に、クレアシドニー事務所のウェブサイトを通じて学校交流のマッチングが成立し、現在も交流が続いている」という反響を複数聞き、活動の効果を実感する機会となりました。



豪州・ニュージーランド／日本の学校からの交流希望の状況はこちら



ブースで豪州の日本語教育関係者と意見交換をするクレアシドニー事務所職員



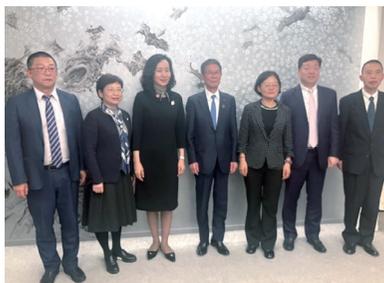
交流親善課

海外自治体幹部交流協力セミナー（北京事務所管内）を開催しました！

2024年11月11日から15日までの5日間、中国の外交部や各省からの幹部5人を迎え、東京都と和歌山県においてセミナーを開催しました。東京都では、明治大学の木村俊介教授から、日本の地方自治制度について講義を受けました。

和歌山県では、「世界遺産を活かした和歌山県の観光施策について」というテーマに基づき、和歌山県職員が県行政の説明を行っただけでなく、昨年世界遺産登録20周年を迎えた「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部である高野山金剛峯寺を視察しました。また、中国の清華大学と交流の深い高野山大学や、日中友好記念碑が建てられている紀三井寺を訪問したほか、昨年にジャイアントパンダ日中共同繁殖研究30周年を迎えたアドベンチャーワールドを見学し、民間ベースの草の根交流について説明を受けました。

セミナーでは、参加者からさまざまな質問や意見が挙げられました。こうした意見交換を通じ、参加者と受け入れ自治体は共に有意義な時間を過ごし、互いの交流を深めると同時に日中関係の大切さを再認識しました。



和歌山県副知事（写真中央）と中国参加者との記念撮影



添田高野山大学長（写真右）との記念撮影

経済交流課

プロモーションアドバイザーを茨城県古河市に派遣しました！

クリアでは、自治体の海外プロモーションを支援するため、専門的知見やノウハウ、経験をもつ専門家（プロモーションアドバイザー（PA））を派遣する事業を実施しています。

ここでは、2024年度の派遣実績として、茨城県古河市への派遣事例をご紹介します。古河市には、株式会社インバウンドにっぽん代表取締役小野秀一郎氏をPAとして派遣しました。

同市には、古河駅から徒歩5分のところに、元々炭の蔵であった「富岡蔵」や肥料の蔵であった「酒井蔵」があります。まずこれらの蔵を見学したのち、古河市職員の案内の下、古河公方公園や古河ゴルフリンクス、篆刻美術館、「古河のお休み処 坂長」の現地視察を行い、小野氏よりインバウンド事業に役立つ助言をいただきました。小野氏からは「日本人、外国人問わず、観光客により古河市を見てもらいたいの、富岡蔵・酒井蔵を宿泊先にしてはどうか」という提案や、「SNS情報発信の強化も大事」との助言がありました。

古河市では、今回の派遣結果を今後の事業展開に生かしていきたいとのことでした。

【お問い合わせ】

経済交流課

Tel : 03-5213-1726

Mail : keishin@clair.or.jp



市内視察（富岡蔵・酒井蔵）



篆刻体験用道具 @ 篆刻美術館の実習室

多文化共生課

地域国際化協会職員国内研修（管理者向け）を開催しました

2024年11月29日に、地域国際化協会において管理職の立場にある職員を対象とした研修を開催しました。

今回の研修テーマは「人材育成とウェルビーイング」です。ウェルビーイングとは「よい状態」や、心身ともに満たされた状態を表す概念で、研修ではまず、ウェルビーイング向上への取り組みなどにより離職率減少に成功したサイボウズ株式会社が活動紹介を行いました。その後、株式会社スリーフィールズ・リサーチ代表の兵頭保之氏が、社員が主体的に働ける組織づくりのための具体的な手法やその背景となる考え方を、自身の経験やデータに基づいて講義しました。

参加者からは「人材育成に関して、これまでと違った観点からのアプローチを得ることができた」「職員との対話を増やしたい」「自身も含めて、幸福度を高める、確認することを日々実践したい」「さまざまな幸せに気づきながら生活したい」などの感想が聞かれました。

2025年度も、アンケートの意見を参考に研修を企画したいと考えております。



講義の様子

JETプログラム事業部

翻訳・通訳講座（集合研修）を実施しました！

2024年12月9日から13日まで、全国市町村国際文化研修所（JIAM）でJETプログラム翻訳・通訳講座（集合研修（英語））を実施し、100人のCIR（国際交流員）と32人のALT（外国語指導助手）が参加しました。本研修では、6カ月間のオンライン研修と年1回の集合研修を実施することで、翻訳・通訳能力を向上させることを目的としています。

集合研修への参加者は、1日目の概論の講義の後に、習熟度に応じた20人程度の少人数クラスに分かれ、経験豊かな講師から指導を受けながら通訳基礎演習やグループワークを通じて実践的な通訳技法を習得しました。研修期間中は、日中は通訳に集中し、夜は翻訳の宿題に取り組むという充実したスケジュールで過ごしました。本研修で得た知識と経験を生かし、最終日には司会や通訳者、パネリストの役割に分かれ模擬シンポジウムを実施するなど、多くの参加者にとって貴重な機会となりました。



集合研修の開会式の様子



アドバンスクラスの様子